

日本写真芸術学会ニュース

No.83

2023.9.20

発行:日本写真芸術学会広報委員会

The Japan Society for Arts and History of Photography.

1. 年次大会 報告

猛暑の夏が過ぎ9月に入りましたが、会員の皆様には益々ご清栄にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

前号 (No.82) の学会ニュースでご案内いたしましたように、本年令和5年度の年次大会は、総会は昨年に継続して文書総会にて開催し、基調講演・研究発表会・学会賞授与式は4年ぶりの対面形式 (オンライン併用) にて、去る7月8日 (土)、東京工芸大学中野キャンパス5号館 (芸術情報館) 1階メインホールをお借りして開催いたしました。また学会賞授与式終了後には、これも4年ぶりとなる懇親会を2号館地下1階「プレイス」の学生食堂にて実施いたしました。

総会報告

令和5年度第32回通常総会は文書総会 (6月20日送付) として行われ、会則第15条【総会は正会員の1/3以上の出席 (委任状を含む) を以て成立し、議事は出席者の過半数の賛成により決定する。但し、賛否同数の場合は、議長がこれを決める】に則り書面表決とし、ハガキによる投票 (正会員数366名のうち返信126通) の結果、以下議案の全てにおいて承認されました。

日本写真芸術学会 第32回通常総会 (議案送付による文書総会・書面表決)

◎報告事項

1. 理事・評議員・監事改選選挙結果報告

◎議事

- 第1号議案 会務・会勢報告
- 第2号議案 令和4年度事業報告
- 第3号議案 令和4年度会計報告・会計監査報告
- 第4号議案 令和5年度事業計画
- 第5号議案 令和5年度予算案

基調講演・研究発表会



開会の挨拶 高橋会長



上田実行委員長



井津建郎氏による基調講演



閉会の挨拶 吉田副会長



会場の東京工芸大学

基調講演・研究発表会報告

基調講演・研究発表会は、7月8日（土）13:00～18:00に、東京工芸大学中野キャンパス5号館（芸術情報館）1階メインホール（オンライン併用）で開催いたしました。

総合司会を年次大会実行委員長の上田耕一郎副会長が務め、はじめに高橋則英会長より開会の挨拶がありました。次に、西垣副会長を座長として、井津建郎先生の基調講演へと移りました。その後、服部理事を座長として調査口述1件、秋元理事を座長として調査口述1件、藤村理事を座長として調査口述1件、鳥海理事を座長として調査口述1件、論文口述1件、小原理事を座長として論文口述1件、作品口述1件の発表があり、加えて1件の論文ポスター発表がありました。終わりに際し、吉田副会長による閉会の挨拶がありました。発表の題目・発表者（所属）及び概要は下記の通りです。（文：上田耕一郎）

基調講演

「Journey Without Map・地図の無い旅」

井津建郎（写真家）

大学在学中に渡米し、ライフワークとなる聖地をめぐる旅が始まった初期から現在に至る写真家としての軌跡を作品をとおり語られました。世界を旅し、感情や主義主張を抑え対象を冷静に捉えた作品には、人や風景だけでなく、その場の音や空気、言葉なども凝縮されているとのこと。またスタジオで光や構成を思いのままに制御して人体や静物を捉えた「BLUE 陰影の美」（2001～2004）、さらに現在進行中の日本人の美意識を考察した「もののははれ 幽玄・侘・寂」（2018～）についても語られました。写真制作ではオリジナルプリントが完成作品であり、プリント制作の大切さを強調されました。さらにオリジナルプリントの価値や作品を解説するキュレーター、展示取引するギャラリストの育成の重要性も指摘されました。（基調講演座長：西垣仁美）



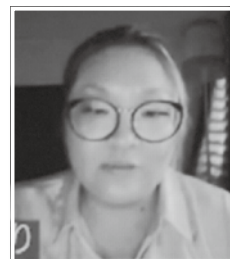
井津建郎氏

研究発表① 調査口述 ※オンライン発表

「汪曉青 (Hsiao Ching Wang) の作品「The Mother as a creator 母親如同創造者」の考察」 馬場さおり (台南應用科技大学美術学科)

台湾のフェミニズムアーティスト汪曉青についての調査内容が発表されました。前半では本人の生い立ちやフェミニズムに目覚めるきっかけ、作品制作に与えた影響について説明があり、後半では彼女の代表作である「The Mother as a creator 母親如同創造者」についての考察が語られました。本人から直接インタビューした内容をもとに、日本では紹介されることの少ない台湾人女性アーティストを知る良い機会でした。

(発表座長：服部一人)



馬場さおり氏

研究発表② (調査口述)

「建築家・隈研吾氏設計「角川武蔵野ミュージアム」において撮影された写真を比較し、建築写真とは何かを考察する」

八木元春 (日本大学芸術学部写真学科)

さまざまな分野の写真が多様化し境界が曖昧となった現代にあって、「建築写真」の定義について、建築家・隈研吾氏設計の「角川武蔵野ミュージアム」を題材にし、媒体に掲載された写真の比較を通して建築写真の要素を抽出し、比較を考察。特徴や撮影手法・効果などの観点から、写真家にとって、あるいは建築家にとっての「建築写真」の意義・意図を見出し、どうあれば「建築写真」として位置付けられるかの考察が報告されました。

(発表座長：秋元貴美子)



八木元春氏

研究発表③ 調査口述

「関東大震災から復興中の東京の写真 新発見！」

石黒敬章 (石黒コレクション保存会)

平成 29 年に古書店より入手された震災直後の東京復興写真 16 枚から、各写真の概要の発表が行われました。修正跡や裏面に施されたメモなどから、職業写真家によって撮影されたものと推察されていましたが、どの写真も鮮明な画像であり、活気ある復興の様子がうかがえる資料でした。今年は関東大震災より 100 年目にあたる節目の年でもあり、近年毎年のように自然災害が報じられています。写真による記録の重要性が伺える発表でした。

(発表座長：藤村里美)



石黒敬章氏

研究発表④ 調査口述

「世界初の実用的カラー写真オートクロームの日本における動向」

仲川真由 (日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了)

なぜ日本国内ではオートクロームの現存数が少ないのか、という問いに対する要因を探る調査内容が発表されました。発表前半では、オートクロームの構造、制作、鑑賞方法について再現実験を行った発表者の視点から説明。後半ではオートクローム発売当時の写真雑誌掲載数や傾向、価格に関する文献調査結果が報告されました。今後のオートクロームの保存研究、手彩色を含む日本カラー写真史に対する新たな知見が期待される発表でした。

(発表座長：鳥海早喜)



仲川真由氏

研究発表⑤ 論文口述

「失われた技法『写真油絵』の復元的研究－「紙盤二製する法」の再現」

谷 昭佳（東京大学史料編纂所） 宇都宮正紀（奈良大学・榎修美）（発表者：谷 昭佳）

横山松三郎と鈴木真一（二代目）が取り組んだ紙製の写真油絵について、特許申請の文面に基づく再現実験を行うことにより得られた知見と考察が発表されました。各制作工程の目的を実験から詳らかにし、写真だけでなく和紙に詳しい者の柔軟な発想と手業であると指摘。紙製写真油絵は日本の伝統的な装飾（装具）の知識と技術が加わった日本独自の技法であると位置づける内容でした。（発表座長：鳥海早喜）



谷 昭佳氏

研究発表⑥ 論文口述

「木村伊兵衛の《ポラロイド写真》について－近代写真批判の視座を踏まえて」

篠田 優（明治大学理工学部助手・明治大学大学院理工学研究科建築・都市学専攻総合芸術系博士後期課程）

木村伊兵衛が1974年に「写真についての写真」展で発表したポラロイド作品と同時代の写真状況についての詳細な考察でした。当時の多木浩二や中平卓馬らの言説を分析しながら70年代の前衛的な写真実践と木村のポラロイド作品が交叉する点を浮き彫りにし、このグループ展そのものを「近代写真」批判という大きな文脈の中に位置付け、再評価しようとするものでした。（発表座長：小原真史）



篠田 優氏

研究発表⑦ 作品口述

「運動の痕跡の記録－「視覚性」を保留し「視覚」の経験を呼び起す試み」

神林 優（宝塚大学東京メディア芸術学部）

自作の制作にまつわる模索や葛藤が「見る」という行為そのものへの根源的な問いと不可分なものとしてあることが提示されただけでなく、写真のインデックス的な性格や視覚と意味との関係、「写真そのもの」とは一体何であるかという問題などに触れつつ、「見る」とは何かという問いを織り込んだようなメタ写真的な作品のありようについて報告されました。（発表座長：小原真史）



神林 優氏

ポスター発表

「川田喜久治の作品「地図」をめぐって日米で語られる広島」

ヒントン実結枝（慶應義塾大学文学研究科）

この研究は、写真家・川田喜久治の初期代表作『地図』（美術出版社、1965）を事例に、日米の美術館において作品をめぐる言語表現に見られる歴史観を分析します。今回の発表では、『地図』の制作過程を再構築したこれまでの研究成果が紹介されました。また、川田の作品に写された場所や人のローカルな個別性と、語られる歴史のグローバルな全体性との相違に着目し、物質文化研究の視点から芸術作品の社会的機能を考察する研究内容についても報告されました。



ヒントン実結枝氏

学会賞授与式

今年度の第23回・日本写真芸術学会賞学会賞は、学術賞2名、芸術賞2名と、これまで最多となる以下4名の会員に対して会長から賞状とトロフィーが授与されました。

学術賞・岡塚章子氏

明治中期から大正にかけての乾板時代に、写真撮影だけでなく、乾板製造、印刷・出版、写真団体結成・写真文化振興など様々な分野で活躍し、写真師として唯一人帝室技芸員を拝命した小川一眞に関する初めての本格的な研究書である著作『帝国の写真師 小川一眞』（国書刊行会・令和4年4月22日刊行）に対して。

学術賞・小原真史氏

19世紀半ばから開催され始める国際博覧会についての写真や絵はがき、版画などを収録した資料集であり、人間が人間を展示するという社会や時代を浮き彫りにした著作『帝国の祭典—博覧会と〈人間の展示〉』（水声社・令和4年10月20日発行）に対して。

芸術賞・秋元貴美子氏

これまでの「化生する光景」「都市を生きる」「マルタ三部作」などに新作も加え、全ての作品を再構成し人間社会と自然の関わりを壮大なテーマとしてまとめた写真展「都市と自然のエレメンツ」（南魚沼市池田記念美術館・令和4年1月22日—4月14日）に対して。

芸術賞・小林紀晴氏

故郷である諏訪地域の1200年以上続く御柱祭を中心に、縄文文化が栄えた八ヶ岳山麓の地域を対象として、太古から現代の日常生活に至るまで、そこに流れる悠久の時間を見事に表現した写真展「縄文の庭」（茅野市美術館・令和4年7月24日—9月4日）に対して。

以上



学術賞・岡塚章子氏



学術賞・小原真史氏



芸術賞・秋元貴美子氏



芸術賞・小林紀晴氏





基調講演座長 西垣副会長



発表①座長 服部理事



発表②座長 秋元理事



発表③座長 藤村理事



発表④⑤座長 鳥海理事



発表⑥⑦座長 小原理事

懇親会



内藤前会長による乾杯



2. 理事会報告

令和5年度第2回理事会 R05.05.26

(オンライン会議)

報告連絡事項

1. 第1回理事会議事録確認
2. 4・5月収支報告
3. 学会ニュースNo.82について

審議事項

1. 会員入退会手続き
2. 令和5年度年次大会について(総会議案・学会賞・研究発表会・懇親会)

令和5年度第3回理事会 R05.06.20

(オンライン会議)

報告連絡事項

1. 第2回理事会議事録確認
2. 5月収支報告

審議事項

1. 会員入退会手続き
2. 令和5年度年次大会について(研究発表会)

令和5年度第4理事会 R05.07.24

(オンライン会議)

報告連絡事項

1. 第3回理事会議事録確認
2. 6月収支報告
3. 令和5年度第32回通常総会結果報告
4. 令和5年度年次大会実施報告

審議事項

1. 会員入退会手続き
2. 令和5年度年次大会反省事項検討
3. 学会ニュースNo.83構成案について
4. 学会ホームページの運用について
5. 令和5年度後半期の研究会等活動について

3. 入会・退会者一覧

令和5年7月24日理事会承認分まで(五十音順)

[入会者・正会員]

桑田恵里、高崎 勉、仲川真由、林 治、横田尚美

[海外会員より正会員への移行]

井津建郎

[入会者・学生会員]

佐藤泰輔、白石咲良、中山優瞳、西川 瞭

[退会者]

小田切毅一、松井宏友

4. 会員への呼びかけ

会員の皆さまにお願い

現在、日本写真芸術学会では、一層の学会活動の活性化と会勢拡大を図っております。そこで、改めまして会員の皆さまに次のようなお願いをしたいと思います。

- ① 学会誌(論文編・創作編)に積極的にご投稿下さい。
- ② 本学会主催の年次大会・研究会・セミナー等に積極的にご出席下さい。(研究会等のアーカイブ配信を開始しましたのでご視聴下さい。)
- ③ 展覧会開催や関係図書の出版に際して、本学会の会員であることをプロフィール等にお示し下さい。
- ④ 展覧会開催や関係図書の出版に先立って、学会事務局に情報をお寄せ下さい。(学会ホームページ等を通じて、会員の皆さまの活動を広報します。)
- ⑤ 本学会の理念や趣旨に賛同される方をご存知でしたら、ご紹介ください。

日本写真芸術学会 事務局

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-9-19

TEL : 03-6279-8290 FAX : 03-6279-8291 mail : jsahp.info@gmail.com

学会誌・論文投稿のお願い

学会誌は学会の重要な研究発表の場です。会員の皆様には益々活発な研究成果の発表・投稿をお待ち致しております。詳細は学会 HP の「投稿規定」をご覧ください。

学会誌〈論文編〉令和 5 年度 第 32 巻・第 2 号については、学会創立 30 周年記念事業を継続し、投稿料、掲載料とも無料と致します（通常通り査読は行います）。

学会誌では学会の研究発表会で発表を行なわれた方等を始めに、皆様の研究成果の発表の場として論文や研究報告の投稿をお待ち致しております。

つきましては下記の通り、宜しくお願い申し上げます。

—— 記 ——

投稿申込期日：令和 5 年 9 月 29 日（金）必着

* 論文投稿のお申し込みは、投稿論文に添付して所定の申込書をお送り頂くか、学会 HP の論文投稿申込フォーム (<https://www.jsahp.org/ronbun-form>) より申込期日までにお申し込み下さい。

* 投稿論文はプリントアウトした論文（英文タイトル、アブストラクト、論文に必要な図、表、写真原稿）一式に、論文一式のデータを記録した CD 等のメディアを添付して申込期日までに学会事務局へお送り下さい（尚、メディアはご返却致しません）。

* 10 月中に査読審査の上、結果をご連絡の予定です。

発行予定日：令和 5 年 12 月中旬

* 投稿論文の数が極端に少ない場合、またその内容や査読審査の結果により発行をやむを得ず休止することもありますので、予めご了承下さい。

尚、次号学会誌〈論文編〉令和 6 年度 第 33 巻・第 1 号は投稿申込期日令和 6 年 2 月 29 日（木）、発行予定日令和 6 年 6 月中旬を予定しておりますので、併せて投稿をお待ち致しております。

キリトリせん

論文投稿申込書

年 月 日

日本写真芸術学会誌 <input type="text"/> 号へ論文の投稿を申し込みます。			
氏名		会員番号	
連絡先	〒	電話	
		メールアドレス	
題名		字数	字
		図版	枚
論文概要			
事務局欄	年 月 日 受付	投稿種類 論文／研究報告／記事	整理番号

コピーをとってご利用下さい。